第52回VE全国大会 プログラムガイド

TOKYOが変わる、 VEも変わる



VEは新たなステージへ

(Value Engineering)

社会的課題を解決し、 SDGsの達成に貢献する VEのあり方とは

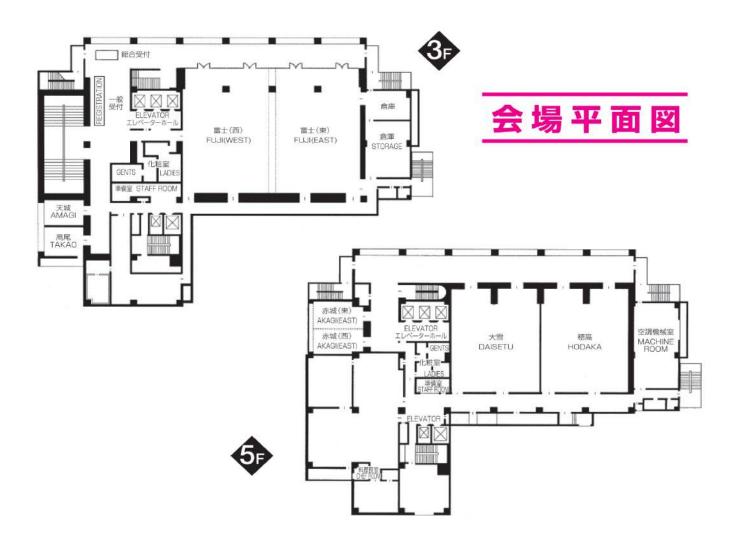


■会 期 2019年 11月6日(水)~7日(木) 2日間

■ 会 場 アルカディア市ヶ谷[東京都千代田区九段北]

主催:公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会

後援:一般社団法人日本建設業連合会 / 日本インダストリアル・エンジニアリング協会 / NPO法人日本TRIZ協会 / 日本創造学会 / 上海VE協会



2階レストランのご案内 RESTAURANT FOSSÉ JAPANESE RESTAURANT Chinese Restaurant



■プログラム

第1日目 11月6日(水)

これからの社会づくりとVEのあり方



10:00 ●開会挨拶

公益社団法人日本パリュー・エンジニアリング協会 会長 斎藤 保 第52回VE全国大会 実行委員長 木守 岳広 CVS

●海外来賓挨拶

10:40 ●協会顕彰表彰式

休 憩

11:00 ●基調講演

プラットフォームビジネスの最強法則 ~すべての産業は統合化される~





12:10

株式会社山下PMC 代表取締役社長 社長執行役員 川原 秀仁 氏

昼食・休憩

13:20 ●VE活動優秀賞 受賞報告

原価企画・VE活動の定着化と開発上流への適用拡大に向けた取り組み



14:00

三菱電機株式会社 コミュニケーション・ネットワーク製作所 資材部原価企画グループ グループマネージャー 玉山 等氏 VES

休 憩

14:20 ●特別講演

企業戦略としてのSDGs ~「発信型三方良し」の時代がやってきた~





15:20

CSR/SDGsコンサルタント 社会情報大学院大学客員教授 株式会社伊藤園 元取締役 笹谷 秀光 氏

休 憩

15:40 ●特別講演

出会いからイノベーションを生み出す ~デジタル・トランスフォーメーションの新潮流~ sansan



16:50

Sansan株式会社 執行役員 Sansan事業部営業部長 加藤 容輔 氏

17:10 ●ネットワーキング・パーティー

各社のVE担当者や第一線で活躍中のVEコンサルタント、表彰を受けた方々などが一堂に会する「ネットワーキング・パーティー」を今年も大会初日に開催いたします。カジュアルな雰囲気の中で、自社の活動ドライブや新たなビジネスにつながる出会いを見つけてください。(大会参加費とは別に参加費をいただきます)



於・TO THE HERBS 市ヶ谷店

18:40



第2日目 11月7日(木)

VEの新しい適用局面



インフラ整備におけるVEの活用



10:00	●実践論文①	●実践論文②
	共有型経済時代におけるサービス創出VEの提案	建設業における全社的VE活動の改善について
10:40	Mind-J 代表 斉藤 浩治 氏 CVS	株式会社フジタ 建築本部VE推進部 主席コンサルタント 曽我 行雄 氏 CVS
10.40	●実践論文③	●特別報告①
	VEによる人事評価制度の研究	短時間VEを活用した業務改善の取り組み
11:20	株式会社ひぐち 人事部課長 柿山 朋寿 氏	大分県土木建築部 建設政策課技術・情報システム班 主査 曽根田 康寿 氏 VES
11:20	●特別報告②《未来への提言》	●特別報告③
	若手バリュー・エンジニアよ 世界を目指せ!	全社員VEマンへの挑戦
		~フジタの建設VE 導入から50年~
	株式会社ファンクショナル・アプローチ研究所 代表取締役社長	株式会社フジタ 建築本部VE推進部 エグゼクティブコンサルタント

昼食・休憩

13:10 ●新商品開発フォーラム

12:00

13:50

14:30

16:10

16:50

横田 尚哉 氏 CVS, FSAVE

商品進化を促す機能分析③ 〜新商品企画における価値評価の考え方〜

【モデレーター】

東京理科大学名誉教授·工学博士

日本経営システム協会 会長 田中 雅康氏 CVS, FSAVE

●特別報告④《VEの新潮流》

IHIにおけるオープンイノベーションについて

株式会社IHI 技術開発本部 技術企画部連携ラボグループ 主幹 鈴木 寿幸 氏 VEL ●インフラ業界向け VE 導入フォーラム

松田 節夫 氏 CVS

インフラ業界におけるVE

~持続可能な社会基盤形成に向けて~

[モテレーター] パシフィックコンサルタンツ株式会社 VEセンター長 木守 岳広 氏 CVS

近年、SDGs(持続可能な開発目標)が注目されています。安定的かつ確実にサービスを提供し、それを持続させる使命を持つ公共インフラは、まさに持続可能な社会の実現に必要不可欠な産業です。本フォーラムでは、インフラ業界を代表する鉄道・道路・電力の3社からパネリストをお招きし、VE導入の背景や推進体制、現場展開のノウハウ、活動継続の工夫などについて議論を進めていきます。VEが「持続可能な社会基盤形成」にどのように貢献できるのか、会場の皆様とともに理解を深めたいと考えています。



14:50 ●「スポーツとVE」特別セッション

東京2020の見方が変わる!? スポーツとイノベーション ~スポーツの価値を考えよう~



15:30 【モデレーター】

ライフバリュー・クリエイト 代表取締役 髙橋 均氏 CVS

関心が日増しに高まっています。スポーツ関連消費や投資マインドの爆発的な拡大が予想される中、国もスポーツを「産業」として捉え、ビジネス面での育成支援に力を入れています。そこで今回、元・プロ野球選手や元・バドミントン日本代表、スポーツビジネスコンサルタントをお招きし、「何のため」「誰のため」というVEの考え方がスポーツの普及や競技力向上にどう貢献できるか、さらにはスポーツの「価値」を高めるため、我々に何ができるかについて議論していきます。

東京オリンピック・バラリンピックがいよいよ来年に迫り、スポーツに対する

·第一部(14:50~16:10)

スポーツとそれを取り巻く環境の現在に至るまでのイノベーションについて

·第二部(16:10~16:50)

スポーツの産業化拡大に求められるスポーツの価値と将来像について

●事例発表③

茨木駅改良工事におけるエスカレータ設置工法の 検討による工期短縮

西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部 施設課川上 翔 氏

●実践論文⑦

首都高小松川ジャンクションの供用開始ステップ検討

首都高速道路株式会社 東京東局保全管理課 課長代理 田中 大介 氏 ほか

●特別報告®《VEの新潮流》

「道の駅」の価値向上の取り組み <PART2>

東日本支部社会インフラ部会 副主査 木守 岳広 氏 CVS



第2日目 11月7日(木)

第1開発部OM開発グループ主事

竹田 幸生 氏 VEL

16:50

		SDGsとVEの接点 大雪				
10:00	●海外発表①【逐次通訳】 中国・エンジンメーカーにおけるVE最新事情 ~高収益確保のための10の施策とその活動事例~	●課題発見力向上ワークショップ レゴ®シリアスプレイ®教材とメソッドを 活用したワークショップで、VEテーマの 選定に役立つ「課題発見力」を高めよう!				
10:40	Weichai Power Co.,Ltd. Zhang Xin 氏 ●実践論文④ 実践活用まで組み込んだVE基礎研修のしくみ構築	【ナビゲーター】 パーソナルブランドコンサルタント、ブランド戦略プロデューサー レゴ® シリアスプレイ®メソッドと教材活用トレーニング修了認定ファシリテータ 有限会社プラントライブ 代表 山本 秀行 氏				
11:20	パイオニア株式会社 モビリティプロダクトカンパニー 原価企画室1課 佐藤 尚吾 氏 VES	VEに取り組んでみたいけれど、テーマが見つからないことってありませんか? それを見つけるには、案件の本質を知り、真の課題を発見する力が必要です。 今回のワークショップでは、レゴ●ブロックを使って作品を作り、その作品に				
40.00	●実践論文⑤ VE成果拡大につながるアイデア発想活動の 提案と実践 メルコ・ディスプレイ・テクノロジー株式会社業務部VEグループ 中嶋 かおり 氏 VES	ついて参加者同士が語り合うことで頭の中を見える化する「レゴ®シリアスプレイ®」のメソッドを活用し、課題発見のノウハウを学んでいただきます。VEテーマの選定にお悩みの方、課題発見力を高めたい方のご参加をお待ちしています。 (聴講・見学は自由ですが、グループ討議は4名×6チームの定員制とさせていただきます)				
12:00	昼食	· 休 憩				
13:10	●実践論文⑥ VE実践におけるマネジメントの問題点に対する 効果的な解決策 有限会社大西マネジメント・ソリューション 代表取締役	●事例発表① 本社スタッフ部門の働き方改革への取り組み 精水化学工業株式会社 生産力革新センター生産技術戦略グループ 生産技術チーム 担当部長				
13:50	大西 規生 氏 VES ほか ●海外発表②【逐次通訳】 2018年度INVEST大会 優秀VE事例紹介 Tata Motors Limited Mrunal Hatwalne 氏 Ingersoll Rand (India) Limited Suresh Kumar 氏	楠本幸治氏 VES ●事例発表② WAVE法を活用した小集団活動の事例 ~タイムカードの入力・チェック時間を30%短縮する~ 広島県府中商工会議所 アドバイザー				
14:30	Larsen & Toubro Limited Vikas G Malkar 氏	永久 利夫 氏 VES				
	#	. 類				
14:50	●特別報告⑤ VEも変わる! 改善型VEから開発型VEへの展開「機能定義の道具」 東日本支部R&D部会 主査	●特別報告⑥ ユネスコSDGs高校生フォーラム指導報告 ~ VEを応用した「SVD手法」の活用~ 株式会社IHI 技術開発本部 ものづくり推進部 部長				
15:30	三好選夫氏CVS ●事例発表④ 組織活動計画へのVE適用事例	松澤 郁夫氏 CVS ●特別報告⑦ 行政機関の働き方改革 "Public Service Value Design"とは				
16:10	三菱日立パワーシステムズ株式会社 ターボマシナリー本部 高砂生産設計部 高温部品生産プロセス開発グループ長 大前 勝禎 氏 VEL	公共機関・地方自治体における働き方改革指針の整備と普及プロジェクト 主査 上野 孝氏 CVS				
	●実践論文® 製品開発の仕様検討段階における情報収集手法の 適用とその考察 ヤマハ発動機株式会社 マリン事業本部マリンエンジン統括部	●実践論文® デューデリジェンスとVEを融合させた 企業価値評価技法の開発				

株式会社福原イノベーション研究所 代表取締役社長兼CEO 福原 政則 氏 CVS



■協会顕彰

顕彰規程に基づき、本会の事業やVEの発展、またはVEに関する研究開発や普及活動で顕著な功績のあった方やグループをVE全国大会で表彰しています。また、「VE活動優秀賞」は継続的にVE活動を実施し、その成果を経営業績に反映させている企業や事業部門に授与されます。

《VE功労賞》

西垣 晃志 氏 [MOTIVENT 社長、元・イオンディライトアカデミー株式会社 代表取締役社長 CVS]

2012年6月から2018年6月までの6年間にわたって本会理事に就任。特に2014年のVE活用支援事業の立ち上げにおいては、方針策定や行動計画の面で適切かつ効果的なアドバイスを行い、同事業の拡大に尽力された。

関西支部(現・西日本支部関西地区)の運営委員やCVSフォーラム委員、「創立 50 周年 SHINKAプロジェクト」のリーダーなどを歴任し、VEの普及・発展にも大きく貢献。 社長を務めたイオンディライトアカデミーではサービス業へのVE普及や人材育成に努めるなど、その功績は極めて大きい。



《研究開発功績賞》

谷 彰三氏〔バリューアップ研究所代表、元・シャープ株式会社コーポレート統括本部経理部参事 CVS〕

西日本支部(関西地区)の「実践原価企画研究会」の主査を10年以上にわたって務め、その活動成果をVE資料No.101「実践原価企画活動の進め方」、VE資料No.104「原価企画導入・実践のためのQ&A」にまとめた。これらは理論的にも技法的にも高い評価を受けており、これから原価企画を導入する企業にとっての指針となっている。

また、同じく主査を務めた「コンセプト・メーキングVEVベルアップ研究会」でもVE資料No.103「コンセプト・メーキングVE」のとりまとめを担当するなど、VE及びその関連技法の研究開発推進において顕著な功績があった。



《普及功労賞》

伊豆 賢治 氏 [株式会社フジタ 東日本支社建築技術部 部長 VEL]

九州支店及び広島支店に在籍当時、VE推進事務局の責任者としてVE活動の推進及び社内発表会の開催、VEリーダー資格取得の積極的な推進を行い、社内のVE普及と活用促進に尽力した。また、協力会社のVE発表会においてVEに関する講演を行うなど、建設業界における裾野拡大にも力を注いだ。

2006年6月から2019年3月までの長きにわたり、西日本支部(中四国・九州地区)の運営委員として西日本VE大会の企画・立案・運営に積極的に協力したほか、九州地区VE塾運営の中心的役割を担った。





大久保 匠 氏 [株式会社富士通ゼネラル 情報通信システム営業統括部ビジネス推進部 専任部長 VES]

2011 年 4 月から現在までの 8 年以上にわたり、東日本支部 V E 推進部会の主査・副主査として部会運営の円滑化と支部活動の活性化に尽力。主査を務めた 2016 年には、V E 特別資料「V E 活動推進のためのポイント集」の取りまとめにリーダーシップを発揮した。社内では、V E 推進委員会の事務局として設計業務の V E 改善や新価値創造のタスクフォースを推進するほか、新入社員や新任幹部社員への V E L 取得をルール化し、部門内の取得率を 50%に引き上げた。



奥田 英二郎 氏〔マツダ株式会社 原価企画本部コモディティ企画推進部 VEセンターアシスタントマネージャー VES〕

西日本支部(中四国・九州地区)の運営委員として、西日本VE大会の企画立案、会場提供などの運営面で積極的に協力。支部活動の活性化と事業拡大に多大な貢献があった。広島地区と九州地区で展開しているVE塾の運営においても中心的な役割を担い、若手バリュー・エンジニアの育成に力を注いでいる。

社内では、VE普及のキーパーソンとして教育カリキュラムの整備、開発・購買・原価企画 部門及び協力企業を対象とした基礎研修の講師を担当するほか、VEセンター見学客やイン ターンシップ学生にテアダウン・VEを解説する講演を実施し、認知度向上に努めている。



斉藤 浩治 氏 [Mind-J 代表 CVS]

2000年よりパシフィックコンサルタンツにて公共事業のVE普及に携わる。2013年からは VEコンサルタントとして独立し、VE技法を取り入れた民間企業の業務改善に取り組んで いる。

協会活動においては 2010 年より東日本支部のR & D部会に参画。現在は「サービス創出のプロセス研究チーム」のリーダーとして活動を牽引している。また、2014 年から委員を務める C V S フォーラム委員会では独自性豊かな提案を行うなど、V E 適用範囲の拡大並びに有効性の実証に力を注いでいる。 V E 全国大会や土木学会の国内だけでなく、米国や欧州のV E 大会において数多くの論文を発表。特に公共分野における V E の普及に顕著な功労が認められた。



佐藤 尚吾 氏〔パイオニア株式会社 モビリティプロダクトカンパニー原価企画室 VES〕

2011年4月から現在まで、8年以上にわたって東日本支部ものつくり部会の主査・副主査を務め、部会運営の円滑化と登録メンバーの増大、支部活動の活性化に大きく貢献した。 社内では、コストエンジニアリング導入プロジェクトやCE/VE活動の推進に携わるほか、各種VE講座の講師や研修事務局を担当。実践活用まで組み込んだVE基礎研修のしくみを構築するなど、VE資格取得の推進とVE人口の拡大に力を注いでいる。





田中 久嘉 氏 [株式会社島津製作所 総合デザインセンター設計推進ユニット 開発プロセス改善グループ 主査 VEL]

2011年3月に西日本支部(関西地区)の運営委員に就任以来、VE京滋セミナー及びVE 関西大会の企画立案、運営に積極的に協力。2017年度から「つかいやすいTRIZ研究会」 の主査を務め、TRIZの効果的な活用方法についての研究活動にリーダーシップを発揮。 社内では、技術部門における効率的・効果的な課題解決をはかるため、VEをはじめとす る管理技術の活用推進や教育体系の構築、教育等を担当。VE、TRIZ、品質工学等の 管理技術を組み込んだ目的別課題解決プロセスを体系化し、全社を対象とした教育・普及 活動と本プロセスの実テーマへの適用を支援する取り組みを進めている。



《VE活動優秀賞》

三菱電機株式会社 コミュニケーション・ネットワーク製作所

所 在 地:兵庫県尼崎市 事業内容:通信機器の製造

代表者:コミュニケーション・ネットワーク製作所所長 清水 克宏氏



全社共通の活動指標と製作所の経営目標を達成するため、年度ごとに製作所としての原価企画・VE活動方針と重点施策を定め、開発企画段階から各段階で活動している。

特に、原価企画・VE活動の推進組織及び活動体制、規程等の仕組みができた 2014 年度以降は、開発企画段階から原価企画・VE活動に取り組み、開発上流でのVE適用率が向上。原価企画機種の目標原価達成率は 100%を達成し、経営活動に大きく貢献している。





MEMO



■講演

《基調講演》 プラットフォームビジネスの最強法則 ~すべての産業は統合化される~ 株式会社 山下PMC 代表取締役社長 社長執行役員 川原 秀仁 氏

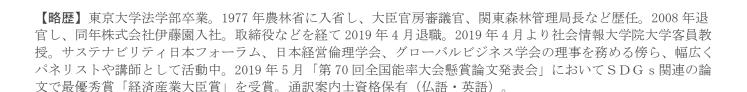
今、全業種・全産業がデジタル・ディスラプション(デジタルによる破壊的変革)の荒波にさらされている。事業領域、事業モデル、産業構造など、その全てが変わろうとしている。その大きな要因をつくっているのがプラットフォームという概念である。これは何もGAFAに限った話ではない。リアルビジネスであれデジタルビジネスであれ、これからはその影響を強く受ける。これを自らのチャンスに変えてビジネス展開する手段を探っていく。



【略歴】1960年生まれ。佐賀県唐津市出身。日本大学理工学部建築学科卒。1983年農用地開発公団、国際協力事業団(JICA)を経て1991年山下設計に入社。1999年プロジェクトマネジメント・コンストラクションマネジメントの専業会社である山下PMCに転籍し、国内のコンストラクションマネジメント技術の礎を築く。2012年12月より現職。著書に「施設参謀〜建設リスクを経営資源に変えるコンサルティング」(ダイヤモンド社)、「プラットフォームビジネスの最強法則〜すべての産業は統合化される」(光文社)がある。

《特別講演》 企業戦略としてのSDGs ~「発信型三方良し」の時代がやってきた~ CSR/SDGsコンサルタント 社会情報大学院大学 客員教授 株式会社伊藤園 元取締役 笹谷 秀光 氏

社会・環境・ガバナンスを重視したESG経営が各方面から要請される中、さらに、持続可能な社会づくりに向けた17のゴールからなる持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)をいかに使いこなすかが企業に問われている。17のゴールは、ビジネスチャンスの獲得とリスク管理の両面で活用すべきで、それにより企業の価値向上、特にブランディングと社員モチベーションの向上に役立つことをお伝えしたい。





《特別講演》 配布資料なし

出会いからイノベーションを生み出す ~デジタル・トランスフォーメーションの新潮流~

Sansan株式会社 執行役員 Sansan事業部営業部長 加藤 容輔 氏

グローバル化とテクノロジーの進化により、従来型の産業を根底から揺るがす革新的なイノベーション、"デジタル・ディスラプション"が起きている。イノベーションの共通点は何なのだろうか?

本講演では、「出会いからイノベーションを生み出す」というミッションを掲げる当社が向き合ってきた挑戦と世の中の変化を挙げ、共通点とイノベーションを起こすヒントをお伝えする。



【略歴】大手派遣会社の東東京エリアマネジャーとして 100 人以上の組織を牽引。その後、2008 年に新市場を創るためSansan株式会社に入社。新しい働き方を提唱し続け、導入社数の拡大に大きく貢献。臨機応変に営業組織を組み換え、時代の流れに応じた営業戦略を展開。現在はデジタル・トランスフォーメーションも交えたエンタープライズ領域を指揮する。

■ 受賞報告

《VE活動優秀賞 受賞報告》

原価企画・VE活動の定着化と 開発上流への適用拡大に向けた取り組み 三菱電機株式会社 コミュニケーション・ネットワーク製作所 資材部原価企画グループ グループマネージャー 玉山 等 氏 VES

三菱電機コミュニケーション・ネットワーク製作所は、原価企画・VE活動を定着させ、また、開発上流へ活動を拡大するため、次の点に注力してきた。

- ①キーマンで構成した専任組織を活用し、関係部門が一体となった活動を開発上流で展開
- ②原価企画フォロー会議を中心としたトップダウンでの活動支援で、活動のPDCAを回す
- ③社内外のVEスキルアップ活動

その結果、目標原価達成率は100%を達成し、経営に大きく貢献している。

【略歴】1988年三菱電機入社。フレキシブル・ディスク・ドライブの機構設計、旋回型監視カメラのモータ駆動制御開発などを担当。2012年12月の当製作所における原価企画グループ発足により原価企画・VE活動に従事し、現在に至る。





■実践論文

《実践論文①》 共有型経済時代におけるサービス創出VEの提案 Mind-J 代表 斉藤 浩治 氏 CVS

これからの時代のパラダイムは「共有型経済(シェアリングエコノミー)」が主役になると予想されている。生産活動は大幅に減少し、物・サービス・場所などを多くの人と共有・交換して利用する社会が訪れる。消費行動はモノからコトへとシフトし、全ての企業の本質が「サービス」になる時代には、新たなサービス創出に取り組むことが重要となる。本稿ではサービスの創出をテーマとして新たなV E検討手順を提案するものである。



【略歴】1971年~2012年パシフィックコンサルタンツに勤務。2002年頃より公共事業分野におけるVE活動に取り組む。2006年より同社のVEセンターに専属。2013年に独立し、Mind-Jを設立。VE手法を軸に関連技法を融合した独自の手法により、組織の業務改善コンサル活動に取り組んでいる。

《実践論文②》 建設業における全社的VE活動の改善について 株式会社フジタ 建築本部VE推進部 主席コンサルタント 曽我 行雄 氏 CVS

当社は半世紀にわたり経営と連携したVE活動を継続しており、建設業の特殊性に対応しつつ全社的なVE活動を行っている。そして、子会社化に伴う新たな経営目標を達成するため、従来から進めてきたVE活動の大幅な改善を行った。そこで、本稿ではこの6年間の取り組みを紹介し、建設会社の全社的VE活動を活性化するために実施した様々な活動やそのために開発・適用した手法であるQVEとVEサークル活動を紹介する。



【略歴】1960年横浜生まれ。1985年に早稲田大学大学院修士建設工学専攻卒、同年、株式会社フジタに入社。作業所勤務、搬送システム開発、情報システム開発を経て、現在、建築本部VE推進部主席コンサルタント。一級建築士及びCVS取得。2008年より日本VE協会東日本支部運営委員、東日本支部副支部長、社会インフラ部会主査。

《実践論文③》 VEによる人事評価制度の研究 株式会社ひぐち 人事部課長 柿山 朋寿 氏

本論文は、多くの企業が抱えている人事課題の1つである「人事評価制度」をVEにより改善する際、どのような切り口で改善の入り口を見つけ、分析していくことが有効かを導き出したものである。そして、弊社の「人事評価制度」を実際の題材とし、実際の代替案を提示することで、VEが「人事評価制度」の改善にも適用可能であることを示す。



【略歴】2000年に株式会社ひぐちへ入社後、飲食事業部の店舗運営に従事。2005年人事部へ異動してからは採用、教育の実務に携わる。現在は報酬体系、評価制度などの人事制度全般の設計に従事。2018年からスタートしたVEの社内推進の事務局を担当し、VEの社内浸透に取り組んでいる。



《実践論文④》 実践活用まで組み込んだVE基礎研修のしくみ構築 パイオニア株式会社 モビリティプロダクトカンパニー 原価企画室 佐藤 尚吾 氏 VES

従来、2日間の基礎講座を受講しVEリーダーの資格を取得しても、自分でVEを活用できないという声が多いという課題があった。そこで、課題背景と受講者が研修に望むことを分析し、講座と資格の取得に加え、受講者自身で計画を立ててVEを実践活用することまで組み込んだ、VE基礎研修のしくみを構築した。この際に、より効果を上げるために受講者への動機付けなど工夫したことや、改善を図ったことについて提案する。



【略歴】1985年パイオニア株式会社に入社。ホームAV製品や光ディスクドライブの開発設計に従事。2009年より光ディスク関連の事業部門で原価企画・VE推進業務に携わり、2015年から全社改革の一環として原価企画を導入し活用、VEの定着に取り組んでいる。

《実践論文⑤》 VE成果拡大につながるアイデア発想活動の提案と実践 メルコ・ディスプレイ・テクノロジー株式会社 業務部VEグループ 中嶋 かおり 氏 VES

ICT (情報通信技術)の普及により、使用者が製品の最安値を容易に知るようになったことで、企業にとって常に一番価値ある製品やサービスを提供するVE成果が求められている。本論文では、VE成果の拡大につながるアイデア発想活動として①VE研修②特許ミーティング③VE実践の3つを融合した活動事例の有効性を示す。



【略歴】2005年度より三菱電機(株)液晶事業統括部/メルコ・ディスプレイ・テクノロジー(株)業務部VEグループに所属。以来、原価企画・VE推進業務に従事。2007年のVES資格取得後は事業所内や三菱電機全社教育におけるVE関連講座の講師を務め、VE実践力を持つ人材の育成にも取り組んでいる。

《実践論文⑥》 VE実践におけるマネジメントの問題点に対する効果的な解決策 有限会社大西マネジメント・ソリューション 代表取締役 大西 規生 氏 VES 有限会社大西マネジメント・ソリューション 相談役 大西 正規 氏 CVS

VE実践活動を効率的に適用して目標を達成するマネジメントが重要である。本論文では、VE実践でのマネジメントの問題点を問題点系統図にまとめ、その中から重要な問題点を5つに絞った。その問題点の解決策を『新・VEの基本』や過去のVE研究資料等の文献からポイントをまとめ、その効果的な解決策を「VE実践活動におけるマネジメント成功の5つの要因」として提案し、事例による有効性の検証結果を報告するものである。



【略歴】大学卒業後、情報システム会社にて製造業のシステム導入、開発、運用および関連する業務改善に携わる。2010年大西マネジメント・ソリューション取締役、2014年より現職。日本 V E 協会では西日本支部運営委員、V E 誌の編集委員を務める。2014年より大阪府立大学非常 勤講師。中小企業診断士。技術士(経営工学部門)。

【略歴】1963年川崎重工業に入社、生産技術部門の要職を歴任。 I E、Q C、V E などの管理技術の実践指導で数々の成果をあげてきた。日本V E 協会西日本支部運営委員、同「経営革新を生み出す活き活き V E 研究会」主査(会員数 117 名)、「V E ツール研究会」主査(会員数 25 名)。2002年大西マネジメント・ソリューション代表取締役、2014年より現職。中小企業診断士。技術士(総合技術監理部門、経営工学部門)。



《実践論文⑦》 首都高小松川ジャンクションの供用開始ステップ検討 首都高速道路株式会社 東京東局保全管理課 課長代理 田中 大介 氏 ほか

首都高小松川ジャンクションは新たに2方向の連結路、小松川出口の付替え、中央環状線方向専用の小松川入口が作られる。使用形態が従来と異なる出入口となることから利用者目線で混乱なく、安全な供用とする必要があった。そこで、本VEではお客様の安全と快適を目指し、小松川ジャンクション供用開始に向けた供用開始ステップや安全対策等についての検討・実施事例を紹介する。



【略歴】2002年首都高速道路公団(現・首都高速道路株式会社)に入社。首都高速道路の橋梁等の補修・補強に関する設計や、大師ジャンクション建設の現場を担当した。2014年から約3年半の間、プロジェクト本部小松川工事事務所にて、小松川ジャンクションの建設に携わった。

《実践論文®》 製品開発の仕様検討段階における情報収集手法の適用とその考察 ヤマハ発動機株式会社 マリン事業本部 マリンエンジン統括部 第1開発部OM開発グループ 主事 竹田 幸生 氏 VEL

「機能の向上」すなわち「より優れた機能を持った製品を使用者に提供する」ためには、的確に「使用者の必要とする機能」を理解し、その要求を上回る機能を提供しなければ高い顧客満足を得てその価値を認められることはない。本論文では、VE対象の情報収集のステップでの「体験法」および「生活研究(観察法)」、機能の定義のステップで「シナリオライト法」を適用した事例をもとに、「使用者の必要とする機能」を正しく理解するための情報収集の重要性について考察する。



【略歴】1993年より工業用刺繍機、クリーンルーム用搬送設備、船舶用エンジンなどの機械設計業務に従事。2015年ヤマハ発動機株式会社に入社。船外機の開発設計を担当した後、2017年より開発部門でのコスト開発力強化の担当として、VEやテアダウンなどの普及、推進に取り組んでいる。

《実践論文9》 デューデリジェンスとVEを融合させた企業価値評価技法の開発 株式会社福原イノベーション研究所 代表取締役社長 兼 CEO 福原 政則 氏 CVS

「VEが変われば、企業も変わる」。新しい『経営VE』の考え方、進め方、評価技法について提言する。従来の顧客満足の高い製品やサービスを開発するVEから、顧客や企業、社員、株主などのステークホルダーの満足を高め、財務諸表に表われる経営数値やROAなどを効率よく改善し企業価値を向上させる経営VEへと、VEの適用範囲は現在拡大している。今回、経営VEの弱点であった企業価値評価技法を開発したので報告する。



【略歴】1995年日立製作所入社。半導体研究開発、全社製品開発VEコンサルティング、グローバル集中集約購買、製品開発・原価企画プロマネに従事し、2011年から現職。現在、企業の事業戦略、経営改革、新製品・新サービス開発、業務改革、調達改革、調達監査のコンサルティングおよび研修を展開中。支援企業数は230社を数える。



■事例発表

《事例発表①》 本社スタッフ部門の働き方改革への取り組み 積水化学工業株式会社 生産力革新センター生産技術戦略グループ 生産技術チーム 担当部長 楠本 幸治 氏 VES

積水化学工業では、ダイバーシティマネジメントを加速するため、2018年を「働き方改革元年」とし、働き方改革を推進している。その一環として、本社スタッフ部門での業務の生産性向上をVE手法を活用して推進した事例を紹介する。



【略歴】システムエンジニア、工場製造管理、管理技術の社内コンサルティング、全社CO2削減活動企画等に従事し現職に至る。現在は、全社モノづくり革新の企画を担当。

《事例発表②》 WAVE法を活用した小集団活動の事例 ~タイムカードの入力・チェック時間を 30%短縮する~ 広島県府中商工会議所 アドバイザー 永久 利夫 氏 VES

広島県・府中商工会議所は、2年前からWAVE法を活用した小集団活動を会員企業に主導している。その指導事例の中から、「長い間、引き継がれてきた作業のやり方なので仕方がない」と思っていたやり方を、チーム全員の努力で劇的に改善させた活動事例を紹介する。



【略歴】㈱北川鉄工所にてコンクリート機械や特殊クレーン等の設計業務に従事。VE推進部門に配転後VES資格を取得。VE教育、VE活動支援等に従事し、2018年退職。2019年3月末、(独)中小機構中国本部経営実務支援アドバイザー(VE)を退任。現在、VE新塾代表として、WAVE法を活用した小集団活動を指導中。

《事例発表③》 茨木駅改良工事におけるエスカレータ設置工法の検討による工期短縮 西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部施設課 川上 翔 氏

ホーム上の階段にエスカレータを併設する工事実績は数多くあるが、階段全てをエスカレータに置き換える工事においてお客様の階段利用動線を確保しながら施工した実績は無く、工事が長期化する課題があった。そのような課題に対しVE手法を用いて工期短縮を実現した。



【略歴】2015年4月西日本旅客鉄道入社。2015年~2018年にかけて茨木駅改良工事の工事監理及びPJ調整を担当。その後、保守部門を経て2019年6月より現部署にて設備投資の建築計画に従事している。



《事例発表④》 組織活動計画へのVE適用事例 三菱日立パワーシステムズ株式会社 ターボマシナリー本部 高砂生産設計部高温部品生産プロセス開発グループ長 大前 勝禎 氏 VEL

弊部は2016年に立ち上げた新しい組織である。トップの方針を部員全員が理解し、自律的に方針に沿った活動ができるように、立上げ後3年間の毎年4月に全員でソフトVEワークショップ活動を実施し年度活動計画を立てた。そのソフトVEワークショップ活動を紹介する。



【略歴】2000年三菱重工業㈱に入社、産業用ガスタービンの設計開発業務に従事。2010年より製造部門にてサプライヤーとの共同VE活動を導入、推進。2014年に事業統合により三菱日立パワーシステムズ㈱となり、海外製造拠点支援業務を経て、2016年より現職。

■ 特別報告

《特別報告①》 短時間VEを活用した業務改善の取り組み 大分県土木建築部 建設政策課技術・情報システム班 主査 曽根田 康寿 氏 VES

大分県では、VE導入時から公共事業の設計VEを実践し、コスト縮減や使用者満足度の向上などの課題を解決してきた。近年、全国的に働き方改革の必要性が叫ばれている中、本県でも業務改善への取組みが喫緊の課題となっている。今回は、危機管理に関する業務を対象に短時間VEを適用して、要求される機能の明確化と職員の負担軽減による業務改善に取組んだ事例を紹介する。



【略歴】2000年大分県庁入庁。土木技術職として、道路改良や橋梁修繕工事の監督員として従事。2005年にVEと出会い、道路計画等を対象とした公共事業の価値向上を目指すVE活動メンバーとして参画。2018年からはVE事務局として、ワークショップの管理・運営、研修講師などを担当している。

《特別報告②》 若手バリュー・エンジニアよ 世界を目指せ! 株式会社ファンクショナル・アプローチ研究所 代表取締役社長 横田 尚哉 氏 CVS, FSAVE

5 年先 10 年先に海外と何らかのコネクションを持っていたい方限定の特別プログラムです。 VE をもっと深く知り、活用をさらに広げるためには、日本から世界に目を向けるべきです。

- ✓ いま世界ではVEがどのように進化しているのか
- ✔ 日本とどれほどの差があるのか
- ✔ 世界とつながるためにはどうすればよいのか

17年連続で海外の大会に参加し、専門家たちとのコネクションを構築してきた横田尚哉が、日本のVEを新たなステージに進めるための《未来への提言》をいたします。来場者限定の特典もございます。

【略歴】経営コンサルタント。米国や欧州のVE界要人と太いパイプを持ち、毎年国際大会に参加・発表し、公共事業への設計VE、サービス業など新しい業界への開拓・導入のノウハウを持ち、VEを一層、一般ビジネスへの普及・発展に尽力をしている。TV・ラジオ出演、ビジネス書籍・雑誌出版、セミナー・講演など多数。





全社員VEマンへの挑戦 ~フジタの建設VE 導入から50年~ 《特別報告③》 株式会社フジタ 建築本部 VE 推進部 エグゼクティブコンサルタント 松田 節夫 氏 CVS

日本の建設業、フジタにおけるVE活用の歴史は長い。様々な変遷を経ながらも、50年間に わたってVEが浸透し、現在まで継続できたのはなぜか。また、日本の建設業界の中で、V Eの活用を他社に先行して実践し、建設業全体へのVE普及にも尽力してきた中から、実際 に独自に開発してきた各種手法や、VEを全社活動として実践活用してきた工夫、努力等を 今後のVE活動をさらに活性化したい組織の参考として述べることとする。



【略歴】1973年フジタ工業(現・フジタ)入社。本社国際部を経て、1986年名古屋支店VE推進部主任となり、 以降一貫してVEを担当。社内のVE教育、指導、支援、技法開発、プロジェクトVE活動等に従事し、VE専任 活動歴は29年を数える。名古屋支店在勤中には、日本VE協会中部支部の建設VE研究会主査として「効率的な VE実践活動のための 2 時間VEの進め方」をまとめた。この「2時間VE」は、建設業のための簡易VE手法 として国内外から高い関心を集めている。2012年には震災復興支援プロジェクトリーダーとして「東日本大震災 復興計画VE支援手引書」を作成。著書に「VEハンドブック」(共著・産業能率大学出版部)がある。

《特別報告④》 配布資料なし

IHIにおけるオープンイノベーションについて 株式会社IHI 技術開発本部 技術企画部連携ラボグループ 主幹 鈴木 寿幸 氏 VEL

IHIのオープンイノベーションについて紹介する。IHIでは、2014年10月にオープンイノベーション推進拠 点「つなぐラボ」を開設以来、自社境界の拡大や開発の加速に、社外の力の積極的な活用を図っている。今年5月 には新たなイノベーション推進スペースを開設した。本発表では、5年にわたる活動を通じて得られた知見と今後 について述べる。

【略歴】1992年石川島播磨重工業(現 I H I)に入社し、技術研究所に配属(振動制御)。有人宇宙開発、R E 営業、海外調達、原価企画、ものづくり推進、経営企画、TQM推進などに従事。2018年度より、技術開発本部 技術企画部「つなぐラボ」にてオープンイノベーション推進を担当。経営学修士、技術士(経営工学)、QC検定 一級。

《特別報告⑤》 VEも変わる! 改善型VEから開発型VEへの展開「機能定義の道具」 東日本支部R&D部会 主査 三好 達夫氏 CVS

VEは適用段階で改善型と開発型に、取り組み方で簡易型と深堀型に分類されます。VEス テップは同じですが、使う道具や進め方は各VEにて異なります。しかし、明確にはなって いません。そこで、VEで最も重要な最初のステップ「機能定義」においてどんな道具をど のように使うかを各々のVEにて整理しました。これにより、各々のVEをスムーズに進め ることができ、さらにはより大きな成果が出る開発型VEへの展開が促進できます。

【略歴】1979年三菱電機入社。2008年より本社生産技術部にて全社VE推進業務に従事。2014 年「第47回VE全国大会」の実行委員長就任。2016年より日本VE協会東日本支部R&D部会 の主査を務める。2019 年三菱電機を退社し、TMバリューコンサルティングを設立。同年、日本VE協会CVSフ オーラム委員会の委員長に就任。現在に至る。



《特別報告⑥》 ユネスコSDGs高校生フォーラム指導報告 ~VEを応用した「SVD手法」の活用~ 株式会社IHI 技術開発本部ものづくり推進部 部長 松澤 郁夫 氏 CVS

次代を担う高校生を対象にSDGs(持続可能な開発目標)への理解を深めるため、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の主催による「SDGs高校生フォーラム」が開催された。フォーラムにおける行動計画策定プロセスにおいて、VE手法を応用した汎用的な問題解決手法としてSVD(Sustainable Value Design)と名付けた手法を開発、活用・指導した。SVD手法が学生にどう受け止められ、どのように活用されたかを報告し、VE手法の新しい適用分野について議論の一助としたい。



【略歴】1990年石川島播磨重工業(現・IHI)入社。航空用エンジン・産業用ガスタービンの設計・生産技術に従事。2002年から本社部門にてIHIグループのVE教育・VEプロジェクトを指導し、個別受注生産に適したVE手法を確立。2004年CVS資格を取得。プラント・橋梁・海洋事業の改革推進を経て、現在は全社のものづくり改革を推進している。

《特別報告⑦》 行政機関の働き方改革 "Public Service Value Design"とは 公共機関・地方自治体における働き方改革指針の整備と普及プロジェクト 主査 上野 孝氏 CVS

日本政府は、人口減少と少子高齢化に伴う労働力減少が続く中で、限られた資源で公共部門が担うべき事業やサービスの質を確保しつつ、働く人たちのライフワークバランスを配慮した働き方改革に取り組む方針を打ち出した。これらの課題解決には、従来の慣行や慣習にとらわれずに原点に戻り、関係者が目的や機能を共有し、従来の発想を超えて知恵を結集するワークショップ活動が鍵となる。今回、CVSフォーラム委員会のプロジェクトが行政関係者の協力を得ながら短時間で効率的に取り組む方法を指針としてまとめたので、その経過を報告する。



【略歴】1984年、民間建設業設計実務者(1級建築士)として、国際認定バリュー・スペシャリスト資格(CVS)を取得。以降、日本VE協会の建設VE研究会の主査として公共VE制度の研究に着手し、マニュアル等の編集にあたる。1997年より全国の官公庁機関に対する公共VEの普及啓蒙活動に参画。2000年、勤務先の建設会社を退社し、VE技術コンサルタントファーム設立。2004年から7年間、国土交通大学校の非常勤講師として設計VE講座を担当。中央官庁・地方自治体を中心に250件の公共プロジェクトや価値向上ワークショップを指導している。

《特別報告⑧》「道の駅」の価値向上の取り組み〈PART2〉 東日本支部社会インフラ部会 副主査 木守 岳広 氏 CVS

国土交通省関東地方整備局と日本V E協会との共同研究である道の駅の価値向上の取り組みについて報告する。前年度の「道の駅しょうなん」に続く 2 事例目。これまで公共事業では、V E は事業のコスト縮減に多く活用されてきたが、価値を向上させる取り組みは少ない。この取り組みでは、実際の道の駅の計画を対象に試行ワークショップを行い、道の駅の計画にV E を適用する事により、V E がより良い道の駅の整備に効果があることを示す。



【略歴】1991年パシフィックコンサルタンツ入社。橋梁など道路構造物全般の計画と設計に従事。2006年よりVE専任組織であるVEセンターに配属。VEコンサルタントとしてVE研修、VE講演、プロジェクト改善、組織改善等、公共事業の改善活動を幅広く支援している。現在はVEセンター長として、新規プロジェクトの企画開発に携わる。



■海外発表

《海外発表①》 中国・エ

中国・エンジンメーカーにおけるVE最新事情 ~高収益確保のための 10 の施策とその活動事例~



Weichai Power Co.,Ltd. Zhang Xin 氏

Weichai Power (濰柴動力股份有限公司) は、1946年に設立された中国最大手の自動車および生産設備製造グループである。従業員数はグローバルで9万人以上、約3800億円の営業利益を誇る。2009年にバリューエンジニアリングオフィスを設立して以降、10年以上にわたって売上総利益率の向上、経験の蓄積とVE手法の活用を中心としたコストマネジメントを展開し、VE実施における重要なガイドとなっている「Weichai Value Engineering」のトップ10施策をまとめた。過剰機能の排除、部品点数の削減、材料利用率の向上など、上記10の施策と優れたVE実施事例を紹介する。



【略歴】2010年吉林大学卒業後、Weichai Power に入社。10年間、バリュー・エンジニアリング業務に従事。現在 は軽ディーゼルエンジンのバリュー・エンジニアリング解析を担当。

《海外発表②》 2018 年度INVEST大会 優秀VE事例紹介

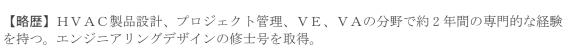








すべての組織は、機能、信頼性、コスト面でお客様の要件を満たす製品を求めている。材料費、賃金、電力費の上昇は、これらの要件の達成を困難にする。コストを削減し、同じ機能性と信頼性を維持しつつ利益率を高めることは世界中の組織にとって必達の使命であり、コスト増による関税追加等の影響を低減し、顧客にリーチし、さらに健全なキャッシュフローを保つことが必要である。技術チームは常に、どの部分に最適な機能をもたらし価値を提供できるかを模索している。本発表では、部品やサブアセンブリの機能を特定するVE手法の応用について、原設計の38%のコストで必要な機能を果たす代替設計を提案する。



【略歴】AVS有資格者。機械工学の学士号を取得。HVAC製品の設計・開発、競合他社のテアダウン、VE、VA、プロジェクト管理の分野を専門として13年活躍。

【略歴】HVAC製品設計、プロジェクト管理、VEを専門に約5年の経験を持つ。機械工学学士号を取得。







【PART2】乗用車フロントグリルのVE事例

Tata Motors Limited Mrunal Hatwalne 氏



車両の美観は、品質上重要なパラメータの一つである。自動車OEMは、車両の知覚品質の向上に向けて多くの焦点を当て、プレミアム仕上げを採用している。部品に必要な仕上げ強化のために使用される一般的な方法の一つはプラスチック塗装だが、プラスチック塗装プロセスは高価であり、高価な塗料や塗装プロセスのために部品コストが大幅に上がる。本発表では、車両塗装除去プロジェクトのVE手法によって得られた大きなコストメリットについて紹介し、将来、設計段階自体に組み込む次の取り組みのために得た知見を報告する。



【略歴】大学でポリマー工学専攻。プネにある Tata Motors 社エンジニアリング研究センター勤務。ポリマー材料の開発、検証、リサイクル性と回収性の規制コンプライアンス、塗料やコーティングを含む自動車用ポリマーの先端技術と研究、接着剤接合技術、および腐食科学において 17 年以上の経験を持つ。現在は、白質材料の先端ポリマー材料・技術、腐食、ボディの手入れを担当する材料工学部門の垂直展開を担う。

【PART3】電磁石の製造工程におけるVE



Larsen & Toubro Limited Vikas G Malkar 氏

インドのスイッチギア産業は非常に競争力がある。ハイエンドな技術、世界的に受け入れられる製品の提供を実現する多国籍企業の存在がその背景にある。厳しい市場環境の中で競争力を維持するためには、組織間でのコスト削減が最も重要な目標となる。製品の「機能」と「価値」が行き詰まると、困難な課題に変わる。製品の機能性を損なうことなくコスト削減を行うことができる領域を特定する際、VEの方法論は非常に役立つため、L&TではVEをお客様の期待に応える戦略的イニシアチブと位置付けている。本発表では、コンタクターで使用される「電磁石」の製造に伴う加工コスト削減のアプローチを紹介する。



【略歴】製造技術部門のマネージャーとしてライフサイクルマネジメントを担当。新製品開発の分野で 20 年以上の経験を持つ。現在は新しい製造プロセス・組立技術の立ち上げを担当。160 件のVEプロジェクト、80 件のプロジェクトに携わる。2014 年インド・ムンバイで開催された第 30 回 I NVEST国際大会で第 3 回最優秀論文賞を受賞。2018 年、VE分野での功績によりL&Tで最優秀VMA賞を受賞。

MEMO			



■フォーラムセッション

《新商品開発フォーラム》 商品進化を促す機能分析③ ~新商品企画における価値評価の考え方~

「商品進化を促す機能分析」と称し、一昨年のVE大会では機能の定義対象を上位・並位に拡大した新概念について、昨年は定義対象拡大後の機能整理、および制約条件の変動化による手段機能の複合化・最適化という提唱に対してディスカッションを行いました。

今年はその第3弾として、商品進化の源となる追加機能の価値評価に関し、その評価方法やサンプル事例の評価結果を踏まえた価格設定等、我々の研究内容の是非について討議していきたいと考えています。商品企画や開発設計に携わる皆様をはじめ、価値評価に対するお考えをお持ちの方、これまでの方法論に疑問や物足りなさを感じている方のご参加をお待ちしています。

モデレーター

東京理科大学名誉教授・工学博士 日本経営システム協会 会長 田中 雅康氏 CVS, FSAVE

プレゼンター

日本経営システム協会 メタVE研究会メンバー なべバリュークリニック 代表 渡邉 美稔 氏 CVS





《インフラ業界向けVE導入フォーラム》 インフラ業界におけるVE ~持続可能な社会基盤形成に向けて~

近年、SDGs (持続可能な開発目標)が注目されています。安定的かつ確実にサービスを提供し、それを持続させる使命を持つ公共インフラは、まさに持続可能な社会の実現に必要不可欠な産業です。

本フォーラムでは、インフラ業界を代表する鉄道・道路・電力の3社からパネリストをお招きし、VE導入の背景や推進体制、現場展開のノウハウ、活動継続の工夫などについて議論を進めていきます。VEが「持続可能な社会基盤形成」にどのように貢献できるのか、会場の皆様とともに理解を深めたいと考えています。



モデレーター

パシフィックコンサルタンツ株式会社 VEセンター長 木守 岳広氏 CVS

パネリスト

西日本旅客鉄道株式会社 鉄道本部 技術開発部 主席 松枝 信一氏 CVS 首都高速道路株式会社 東京東局 施設保全設計課 担当課長 中原 格氏 VES 東京電力パワーグリッド株式会社 資材調達センター 原価企画第一グループ 課長 青野 文泰氏









《スポーツとVE 特別セッション》 スポーツとイノベーション ~スポーツの価値を考えよう~

配布資料なし

東京オリンピック・パラリンピックがいよいよ来年に迫り、スポーツに対する関心が日増しに高まっています。スポーツ関連消費や投資マインドの爆発的な拡大が予想される中、国もスポーツを「産業」として捉え、ビジネス面での育成支援に力を入れています。そこで今回、元・プロ野球選手や元・バドミントン日本代表、スポーツビジネスコンサルタントをお招きし、「何のため」「誰のため」というVEの考え方がスポーツの普及や競技力向上にどう貢献できるか、さらにはスポーツの「価値」を高めるため、我々に何ができるかについて議論していきます。※本セッションは以下のような二部構成になっています。



- ・第一部 (14:50 ~ 16:10) スポーツとそれを取り巻く環境の現在に至るまでのイノベーションについて
- ・第二部(16:10~16:50) スポーツの産業化拡大に求められるスポーツの価値と将来像について

モデレーター

ライフバリュー・クリエイト 代表取締役 髙橋 均氏 CVS

パネリスト

株式会社GSL 代表取締役 小野 剛氏

【略歴】1978年生まれ。武蔵大学では首都大学野球連盟記録を塗り替える通算37勝をマーク。2000年ドラフト7位で巨人に入団するも一軍登板なし。イタリアプロリーグ、西武を経て2006年現役引退。プロ野球通算12試合で0勝0敗。引退後は武蔵大学大学院で金融を学び、2010年3月経営・ファイナンス専攻の修士課程を修了。不動産会社勤務を経て、プロ野球選手や音楽家をマネジメントする株式会社GSLを設立。野球塾と学習塾を組み合わせた狭山西武ボーイズで子供たちの指導を行う傍ら、飲食店・調剤薬局・不動産・商社と様々な事業を手がけている。



フクダハウジング株式会社 代表取締役社長 木津 広美 氏 VEL

【略歴】元・バドミントン日本代表。1981年ヨネックス入社。1985年新潟の大手ゼネコン、福田組に移り、初の女性総合職、管理職となる。1995年、第一子の産休中にVEL資格を取得。管理部門の業務にVE思考を取り入れ、部下育成・業務改善を図る。グループ企業の人材派遣会社、ファインズの社長を経て2017年より現職。現在は日本バドミントン協会の指導開発部に籍を置き、全国の指導者を対象とした研修講師として活躍中。キャリアコンサルタントほか、人材育成に関する資格を多数保有。2014年より日本VE協会の理事を務める。



CHIKARIZE 代表、スポーツビジネスコンサルタント 関田 力 氏 CVS

【略歴】バリュー・エンジニアリングの手法を活かし、アスリートの思考改革・キャリア支援やスポーツ団体の価値創造・問題解決に携わる改善士。学生時代には野球部に所属し、高校一年時にチームが30年ぶりの甲子園出場を果たす。大学へ進学以降、中学・高校野球部の指導に携わる。卒業後、外資系IT企業のシステムエンジニア、大手外資監査法人系コンサルティングファームにおいて大小様々なITシステム構築・新規事業開発等を成功に導く。現在は一般ビジネスだけでなく、スポーツ界の価値向上に貢献するため、第一人者としてVEの研究・実践に邁進している。





《課題発見力向上ワークショップ》 レゴ®シリアスプレイ®メソッドと教材を活用したワークショップで、 VEテーマの選定に役立つ「課題発見力」を高めよう!

VEに取り組んでみたいけれど、テーマが見つからないことってありませんか?

それを見つけるには、案件の本質を知り、真の課題を発見する力が必要です。今回のワークショップでは、レゴ®ブロックを使って作品を作り、その作品について参加者同士が語り合うことで頭の中を見える化する「レゴ®シリアスプレイ®」のメソッドを活用し、課題発見のノウハウを学んでいただきます。

VEテーマの選定にお悩みの方、課題発見力を高めたい方のご参加をお待ちしています。

※聴講・見学は自由ですが、グループ討議は定員制(4名×6チーム)となります。グループ討議へのご参加につき しては、事前にお申し込みいただいた方を優先させていただきます。

ナビゲーター

パーソナルブランドコンサルタント、ブランド戦略プロデューサーレゴ®シリアスプレイ®メソッドと教材活用トレーニング 修了認定ファシリテータ 有限会社プラントライブ 代表 山本 秀行 氏





また、企業や製品、店舗、地域等をパーソナルな視点からブランドに導くコンサルタントとしても高い評価を得ている。著書に『パーソナルブランディング/あなたをもっと高く売る』(日経BP社)、『人前で話すことが楽になる人前力 33 のルール』『いいね!と言われる伝え方』(共に日本経済新聞出版社)、『自分らしさを見つけて輝く5つのレッスン』(ソフトバンククリエイティブ)等。

キャリアカウンセラー (GCDF-Japan, 米国 CCE, Inc. 認定)、上級生涯生活設計コンサルタント(社団法人中高年齢者雇用福祉協会)、レゴ® シリアスプレイ®メソッドと教材活用トレーニング修了認定ファシリテータ。

MEMO			



■大会スポンサー

本大会の開催にあたり、下記の企業から格別のご支援を賜りました。ここに記して厚くお礼申し上げます。

エキジビットスポンサー





三菱日立パワーシステムズ Mitsubishi Hitachi Power Systems



SIEMENS Ingenuity for life

サポートスポンサー















■ エキジビットコーナー

大会2日間、3階のロビーでVE活動支援ツールのデモ展示を行っていますので、ぜひお立ち寄りください。

【SCSK 株式会社】



【株式会社日本生工技研】

Time Prism の各種機能





【シーメンス株式会社】

Teamcenter Product Cost Management

SIEMENS

Ingenuity for life



目標達成をサポートする原価企画管理機能

8018

-200 M

モデルライフ収益計

2 2 2 2 2 2

VEやコストダウンをしたいが、コスト構造が可視化されていなかったり、見積ノウハウが蓄積されておらず、非効率な活動になっていませんか?

導入によるうれしさ

- コスト構成要素の標準化やパラメーター管理により、目標原 価設定力の強化や、購入部品コストの交渉リードを実現
- コストモデリング機能により、見積ノウハウの蓄積と再利用 による見積プロセスの効率化に寄与
- ワンデータベースによるグローバル原価企画を実現

Why SIEMENS

- 原価企画フェーズの様々な業務ケースをカバー
- PLMシステム(部品表/CADシステム)・ERPシステムとの シームレスな連携機能によるデジタル原価企画の実現
- 生産地情報、材料、マシン、製造工程、標準コストドライ バーなどのナレッジデータベースを提供
- ・ 欧米自動車業界をはじめ様々な産業での豊富な導入実績

お問い合わせ・資料請求 シーメンス株式会社 ポートフォリオ開発本部 深津 TEL: 03-5354-6700 EMAIL: masatoshi.fukatsu@siemens.com

【三菱日立パワーシステムズ株式会社】

MHPS

Mitsubishi Hitachi Power Systems

価値を高める 製造(ものづくり)ICT化 コンサルティングサービス_MPRO Plus



| 1.70e ス細胞 | 0.8m, 19m, 2792 - 1.6 | 1.70e ス細胞 | 0.8m, 19m, 2792 - 1.6 | 1.70e ス細胞 | 0.8m, 19m, 2792 - 1.6 | 1.30m | 1.30m



ものづくりに関する豊富な人材と設備で、 製造ICT を工場で実証しています。

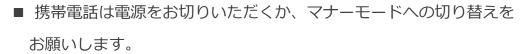
ご来場の皆様へ(ご案内とお願い)

■ 3階と5階のフロアは全面禁煙です。タバコは7階の喫煙コーナーで お願いします。



- ランチタイム、2階のレストランはたいへん混雑します。会場周辺にも飲食店が 多数ありますので、こちらもご利用ください。
- 発表会場内での飲食はご遠慮ください(ペットボトルは可)
- 電話のお呼び出しはお受けできません。連絡事項は、総合受付横の 伝言板に掲示しております。







- 3階と5階で参加者限定のWi-Fiネットワークがご利用いただけます。
 - ・SSID は 3 階が「arcadia3f」、5 階が「arcadia5f」です。
 - ・パスワードは総合受付横の伝言板に掲示してあります。
- パソコンご使用の際は、キーボードの打鍵音にご配慮をお願いします。















アンケートにご協力をお願いします

抽選で 20 名様に特製 QUO カードをプレゼント!



今回のプログラムは、皆様のご期待に応える内容だったでしょうか? 皆様からのご意見やご提案を次回大会の企画・運営に反映したいと思います。 大会終了後、「参加者アンケート」のページをメールにてご案内しますので、ご協力を お願いします。

Society Of Japanese Value Engineerring

VE研修講師派遣の ご案内

1965年創立の日本VE協会は、日本唯一のVE専門団体です。 VE 研修講師、実践アドバイザーなど経験豊富な専門家を貴社へ派遣いたします。

https://www.sjve.org/

■ VEによる人材育成 ~新たな価値創造へ~

VEでは、目的追求型の思考で問題解決に取り組みます。機能を原点として「それは何のために?」を繰り返し考えて、あるべき姿を追求します。原因追究型の改善では、現状の改良案になりがちですが、VEの思考プロセスにより抜本的な改革、革新的な価値創造を可能にします。

■ 講師派遣による社内研修のおすすめ

1

オリジナル プログラムの作成

教育ニーズや対象層に 合わせたプログラムを ご提案いたします。 2

日程を 選べる

日程、曜日、時間帯など ご要望に合わせてご提 寒いたします 3

費用・時間の 削減

社外セミナーの受講に 伴う出張費用、出張時間 の削減になります。 4

業務負担を 軽減

テキスト・教材準備など、 研修ご担当者の業務負 担を軽減します。 5

海外での 研修も可能

現地スタッフを対象とし た海外拠点での研修も 実施できます。

- 実施例 ○定 型 プログラム: VE初級・中級コース等の公開講座と同じ内容を貴社内で実施。
 - ○オリジナルプログラム: 貴社の教育ニーズに合わせたプログラムをご提案。
 - ○実 践 指 導:実務課題をテーマとした実践ワークショッププランをご提案。
- 費用例 ○VE初級定型プログラムの場合(テキスト・教材費込、消費税・講師交通費・宿泊費別)

10名様 300,000円 20名様 450,000円 30名様 600,000円

実施までの流れ



お問い合わせ・お見積りは、下記までお気軽にどうぞ。 メールまたは専用フォーム(https://www.sjve.org/11163)をご利用ください。

TEL 03-5430-4488

ve / 11163



E-mail: info@sjve.org

公益社団法人

日本バリュー・エンジニアリング協会 バリュー・ソリューション・センター

〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-4-15 真井ビル6階

₩ 公益社団法人 日本バリュー・エンジニアリング協会

東京都世田谷区駒沢 1-4-15 真井ビル 6F TEL.03-5430-4488 / FAX.03-5430-4431 E-mail info@sjve.org URL www.sjve.org